

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こども発達支援ルームぶらすup			公表日：2025年3月13日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用定員に対して十分な広さを確保しているが、言語訓練に特化した環境を整えるため、新たにR6年度にST室を配置している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		国の人員配置基準以上の職員を配置している。また機能訓練のニーズに対応できるよう、理学療法士や言語聴覚士等を常時配置し、より充実した療育を提供できるようにしている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		建物の構造上、完全にバリアフリー化は難しいが、手すり等を設置したり、移動する際に段差がある場合には、声かけや介助等を行い、安全に配慮している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		提供する療育活動に合わせて環境設定を行っている。また放課後等デイサービスと利用時間が重なった場合でも、しっかりと活動プログラムを提供できるよう部屋を分ける等、工夫している。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じて活動に合った部屋や場所を設定している。また現在、個別の療育を中心にしている。今後、集団療育を進めていく場合には、子ども自身が選択できるような環境設定を行っていく。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		朝礼や療育終了後等に、職員間で振り返りや共有する時間を持ったり、個別支援計画による療育支援を進めていくための支援会議を開き、協議している。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者からの希望にできる限り対応できるよう、職員間で協議し、改善できる部分については対応している。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員との面談や日々の朝礼や昼礼時に、職員間で共有する時間をもち、児童との関わり方や支援内容について話し合う時間を設けている。また療育終了後には、次回以降の改善に向けての振り返りを行っている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者評価は行ってない。ただ、ぶらすupだより等の広報活動に力を入れたり、相談支援専門員や関係機関の来訪、ボランティア等の受け入れ等、風通しの良い環境となるよう心がけている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		支援ミーティング等で、児童に療育を提供していくうえでの課題点や検討事項等の確認、OJTの実施や雇用形態を問わず全職員に対して社内外研修に参加する機会を設けるなど、職員が自己研鑽しやすい環境を整えている。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		月ごとにシステム（HUG）にて、行事やプログラムを案内したり、ぶらすupだよりにて公開している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		利用開始前の見学や体験時の様子も含めて、保護者から聞き取りを行ったうえで個別支援計画書を作成している。また、日々の行動観察を記録し、職員間で共有・協議しながら個別支援会議を行い、作成するようにしている。今後も引き続き、よりよい支援が出来るよう、アセスメント方法の検討をしていきたいと考えている。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者やリーダー職員を中心に、保育園やご家庭の様子を聞き取り、こどもの最善の利益を考慮し、個別支援計画を作成している。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画書に基づいて支援を行っている。また定期的なモニタリングや個別支援会議を通して支援内容の確認を行っている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントツールやいろいろな文献等を参考にしたり、機能訓練担当職員による専門的なアセスメントを実施している。また今後も引き続き、よりよい支援が出来るよう、子育てファイルふくいっ子などのツールを活用できないかを検討していきたいと考えている。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		新任者研修等ではガイドラインを読み込むことを基本とし、ガイドラインに沿って支援を行っていくよう、職員間で共有している。また、相談員や保護者からのニーズ等をお聞きしたうえで、当事業所として提供できる支援内容やご本人に必要なと思われる支援等について、保護者等と相談を行い、計画を立てている。必要に応じて、通所先などの関係機関等とも情報共有しながら支援内容を設定している。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動内容や支援方法などについて、児童指導員、理学療法士、言語聴覚士等多職種の視点から検討し、プログラムを考えている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		ご本人の様子や成長等を確認しながら、多職種の視点でいろいろな活動を提供している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		児童の状況に応じて、個別活動の時間、集団活動の時間をそれぞれ設定し、本人のペースに合わせて無理のない範囲で行っている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼等に支援の内容等について周知および確認を行っている。R7年1月末からは、さらに支援の内容や役割分担などを確認し、チームで連携するように努めている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		昼礼時や翌朝のミーティング等で振り返り等を行い、次回の療育に繋げているが、今後はさらに療育を充実できるよう、有意義な振り返りとなるよう方法を検討していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		システム（HUG）を活用し、その日の支援について記録を入力し、基本的には毎日、保護者へ公開している。また、児童の様子など気がかりな点等について、業務の振り返りや支援ミーティング等にて確認し、検討・改善している。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		少なくとも半年に1回以上、モニタリングを行い、計画を策定するために個別支援会議を開催し、計画の見直し等を行っている。またモニタリング以外でも必要に応じて、保護者等と面談を行い、ニーズに合わせて計画の変更がある場合には見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者と担当職員が出席することが出来るよう調整している。また機能訓練担当職員も出席できる場合には、出来る限り出席している。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		サービス担当者会議等を中心に、必要に応じて保育園、保健師、障害福祉、医療機関などと連携することができている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		サービス担当者会議やアセスメント時に、保護者や相談支援事業所等へ確認している。必要な際は、通所先（保育園等）へ連絡し、様子を伺ったり、情報共有の相互理解を図るよう努めている。今後も必要に応じて情報共有を行っていきたく考えている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○	現在、利用しているお子様が低年齢のため、当事業所としては就学時の移行が未経験である。今後は、保護者や相談支援事業所等と連携し、必要に応じて情報共有を行っていきたく考えている。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		専門機関が主催する研修に参加したり、児童の状況に応じて、その都度、専門機関等から助言をいただきながら支援している。また研修を受講した職員は、職員会議等で報告を行うことで、全職員と知識の共有を行っている。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	現在、本人の特性に応じて個別の機能訓練を中心に実施しているため、そのような機会を持っていない。今後、発達状況に応じて、交流する機会を設けられるよう検討していきたいと考えている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		利用時に保護者に対して自宅で出来るリハビリ方法などを書面や口頭で、情報共有を行っている。またシステム（HUG）にて、毎日の療育内容について写真付きで報告している。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	現在、児童発達支援としては、保護者向けのプログラムは実施していないが、放デイとの多機能型として保護者セミナーを開催している。また、保護者から相談があった場合には、その都度、対応方法などについて話し合う機会を設けている。今後、ペアトレの研修を受講し相談があった際には対応していきたい。	
保護者へ	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に説明を実施したり、不明な点については随時、説明するようにしている。また支援内容については保護者と話す機会やシステム（HUG）等で連絡している。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		こどもの最善の利益を優先考慮の視点をもち、こどもや保護者の意向を聞き取り、計画書に反映させることに努めている。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		児童発達支援ガイドラインに基づいて、児童発達支援計画の作成を行い保護者へ説明、同意を行っている。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的な面談以外でも、必要に応じて保護者から相談のあった場合には、適宜、対応し、相談内容に応じて改めて相談日を設ける等している。また、職員間で情報共有を行い、検討して適切に対応している。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		現在、児童発達支援としては、保護者会等は設置していないが、放デイとの多機能型として保護者セミナーを開催している。今後、年代別や先輩保護者との交流ができる機会を提供できるよう検討していきたいと考えている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	
の 説 明 等	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		ご意見箱の設置や苦情解決体制を整え、苦情や問い合わせ等があった場合には、マニュアルに従い検討し、対応している。また保護者からの相談、申入れがあった際には、その都度対応している。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ぶらすupだよりを作成・配布したり、システム（HUG）を通してその都度、情報を発信している。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報が記載された書類等については、鍵付きのキャビネットに保管するなど、取り扱いには十分注意している。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		児童や保護者に合わせて、イラスト等を使って、わかりやすく説明するよう工夫したり、理解してもらえたかなど確認しながら意思の疎通を図っている。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	児童発達支援に関しては、令和5年11月からスタートしており、児童発達支援としての行事を開催する機会を持っていない。放課後等デイサービスでは地域の方に協力をいただきながら行事等を行っているので、児童発達支援でも実施できるよう検討していきたい。
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルについては、施設内に設置しており、いつでも閲覧できるようになっている。職員には研修時に周知している。また契約時や保護者セミナーにおいて安全計画の説明を行っている。今後は、もっと保護者に対して分かりやすい形で情報を発信していく必要性を感じているため、システム（HUG）等を利用し、周知していくことを検討している。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		児童発達支援単独ではなく放デイとの多機能型として、職員に対しては行政等にご協力をいただき出前講座を活用しながら、災害教室や避難訓練などを毎月行っている。今後は、児童発達支援に特化した形でも実施できるよう検討していきたいと考えている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		現在、該当する児童はいないが、受け入れる場合には、保護者へ確認を行っていきたいと考えている。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現在、該当する児童はいないが、受け入れる場合には、医師の指示書に基づき、保護者等と相談しながら整えていきたいと考えている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づいて、研修や訓練を行っている。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時、保護者研修の際に非常時の対応について説明を行っている。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリ・ハットな事例があった場合、報告書に記載し、朝礼、昼礼時や職員会議等を通して職員で共有している。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		新任者には、虐待や権利擁護に対する正しい知識を得て、児童と関わりをもてるよう、新任者研修内で虐待防止・権利擁護に関する知識を学ぶカリキュラムとしている。また虐待防止委員会を設置し、全職員が年1回以上、社内外の虐待防止・権利擁護に関する研修等を受講している。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		現在、身体拘束を行う必要がある子どもの利用はないが、日々の関わりの中で、小さな出来事が身体拘束へと発展していかないよう、虐待防止研修等で学んだことを職員間で共有し、お互いに留意しながら支援している。もしやむを得ず身体拘束を行う必要性が出てきた場合には、身体拘束等適正化委員会等で十分に検討し、利用者本人の生命や身体を保護するための緊急を要する場合に、切迫性・非代替性・一時性であることを条件に行うことを職員の共通認識とし、計画に記載する必要があると考えている。	